

幸先の良いスタートとなったブラジル株式相場

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

ブラジル株式相場は、2010年最初の商いとなった4日に、指標のボベスパ指数が2008年6月以来の70,000台乗せを遂げ、5日も堅調な展開となるなど幸先の良いスタートとなりました。

足元の株価上昇の主な背景は、下記①、②にあるとみられます。

①ブラジルの経済成長に対し明るい見通しが示されたこと

ブラジル中央銀行が1月4日発表した、民間エコノミストによる2010年のブラジルのGDP(国内総生産)成長率予想の集計は+5.2%となり、昨年12月に発表された同行の予想+5.8%と同様に、IMF(国際通貨基金)の予想である+3.5%を大きく上回る見通しとなりました。

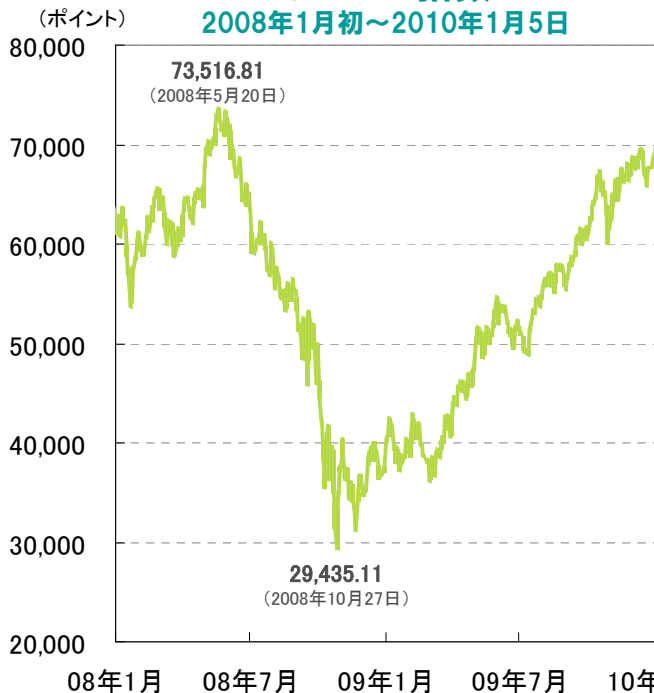
②米国および中国の製造業の景況感が大きく改善したこと

1月に入り、米国および中国で相次いで発表された昨年12月の製造業の景況感指数がいずれも大きく上昇し、両国の景況感の回復傾向が鮮明になりました。これに伴い、先行きの鉄鉱石や原油などの一次産品需要の拡大や商品相場の上昇がブラジル景気の追い風になるとの期待が高まりました。

好調な推移を続けるブラジルの株式相場ですが、昨日までで7営業日連続の上昇となっており、短期的には高値警戒感がくすぶる可能性があると思われます。しかし、上記に代表されるような良好な経済見通しなどを背景に、2010年も基本的には堅調な推移が見込まれます。

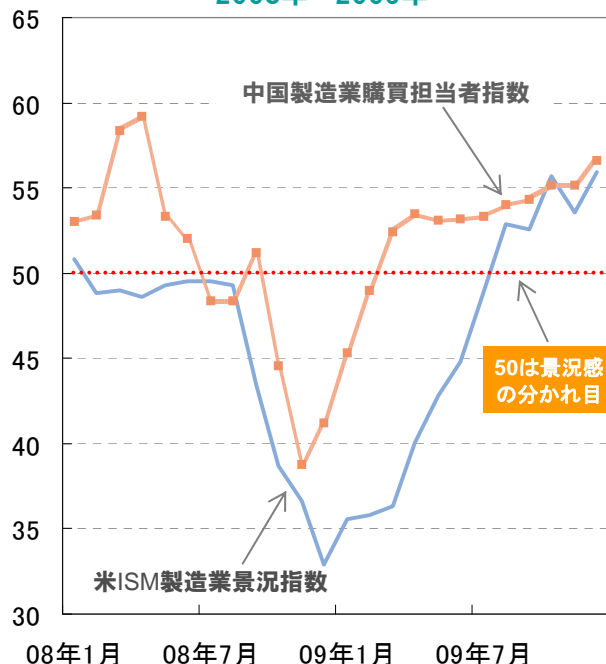
ボベスパ指数

2008年1月初～2010年1月5日



米国・中国の製造業の景況感指数

2008年～2009年



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
 ※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。